

「神の最高傑作として生かされる。」

詩篇139編

■ 神様は私たちを探って下さる

「主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。あなたこそ私の座るのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り（見分け）、私の道をことごとく知っておられます。（通じておられる。）ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。」
この聖書箇所では、神様は私たちの全てを知っておられる方、全知全能の神である、ということが書いてありますが、神様が私たちのことを全て知っているということをいろいろな表現で書いてあります。
探っているとは、調べつくすという意味です。興味があることは調べたくくなります。見つけようとしていなくてもすぐに目に入り、知りたいと思います。神様は私たちのことに興味を持って下さり、知りたいと思っておられ、探ってくださいています。

■ 神様は私の事を全て知っておられる。

歩くのも伏すのも見守っているとは、見て区別するという意味です。ロボットを腕を作ることをイメージしてください。部品を組み立て、プログラミングをして初めて動きます。それには時間もお金もかかります。私たちは何も考えなくても腕を動かすことができます。それは、神様がもう既につくってくださっているからです。立つことも座ることもどの関節を動かすかも知っておられます。神様は遺伝子レベルで私たちのことを知ってくださいています。私たちのことを全て知ってくださいているということをダビデは言っています。
私の道をことごとく知っておられますという箇所は、通じているとも訳されています。神様に全ての道が繋がっていると書かれています。繋がっているということとはとても大切なことです。だから、神様は全て私のことを知っているのです。 私たちが何を語ろうとしているのか何を考えているのかさえも知り、理解してくださっています。

■ あなたは守られている

あなたは前から後ろから私を取り囲みとは、まるでボディガードのように守られているという意味です。私たちの弱ささえも知っておられます。アメリカの大統領が外国に行くとき、650人のシークレットサービスを連れていくそうです。この大勢の守りと同じように私たちも神様に守られています。優しい神様の御手が上にあり、私が守るから大丈夫、と言ってくださいています。
フィリピンで出産したとき、文化の違いによって多くの不安がありました。そのときに多くの人に祈ってもらい、支えられました。神様の守りの御手が私たちにはあります。
私たちは自分のことが意外とわかっていません。でも、神様は全て知っておられます。それは、あまりにも大きいことで、不思議なことです。私たちに計り知れない神様の愛があります。

■ 詩篇139：13

□詩篇139：13
「それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。私がひそかに造られ、地の深いところで仕組まれた（織りなされた）とき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。」
詩篇には神様がこの世界を造られたことを書いている箇所が多くありますが、ここではダビデは、神様は自分自身をつくってくださったのだという個人の創造について記しています。ダビデはまるで科学者のような表現をしています。「私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられた」と書いています。とてもない神様の御技に圧倒され、神様に感謝をささげています。命の誕生は、宇宙的な素晴らしい奇跡です。
私たちが生かされているのは奇跡の結晶であり、本当に素晴らしいことです。ここでは、織りあげるといふ表現が使われています。手で機を織っていくように神様が一つ一つ丁寧に紡いでいく様子を表しています。また、織りなすという言葉は模様をつくるという意味があります。雪の結晶が、全て形が違っているように、一人一人全く違うよさをもって生まれた尊い存在なのだとおっしゃられています。私たちは神様の図り知れない計画のために生かされている尊い存在です。

■ 詩篇139：16

□詩篇139：16
「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物に全てが書き記されました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。」
神様があなたをお母さんのお腹の中につくられたときに、あなたの素晴らしい人生を既に書き記して下さり、丁寧に一日一日を計画して下さっています。私たちにそれを図り知ることはできません。私たちが考えている予定ではないことが多く起きています。振り返ってみれば全てが繋がっていて、全ては神様の計画だということが分かりました。神様の御技はなんと素晴らしいのでしょうか。私たちの人生

は神様によって既に計画されています。一人一人がユニークで素晴らしい存在として造られています。

■ 詩篇139：17

□詩篇139：17
「神よ。あなたの御思いを知るのとはなんと難しいことでしょうか。その総計は、なんと多いことでしょうか。それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目覚めるとき、私はなおも、あなたとともにいます。（わたしはなお、あなたの中にいる。）
自分の中に神様がいらっしゃるのではなく、神様の中に私たちがいるのです。神様の計画の中に私たちは生かされています。」

■ 139：23-24

□詩篇139：23-24
「神よ、私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をそこしえの道に導いてください。」
これは、139章の最後の節です。139章の最初に「神様はあなたのことを全て知っている。」とダビデは語っているので、矛盾があるように思えます。1節と同じ言葉が意図的に使ってあります。1節は神様側から描かれた言葉で、この23節は私たち人間側からの表現で語られています。私たち人間は自分の弱さや罪を隠し通そうとしてしまうところがあります。隠すことが癖になり、自分の本心がわからなくなることがあるのではないのでしょうか。私たちは本心で行動しているのでしょうか。確かに神様は私たちのことを全部知ってくださいています。でも、私たちの方から「私を知ってください。」と神様に自分の正直な思いを明け渡すことが大切です。あなたの本心は何ですか。自分の思い煩いや辛かったこと、悩んでいること、心の傷などがあるままに神様の前に出すことがとても大事です。だから、ダビデは最後に最初と同じ言葉を使って書き記しています。私たちが暗いドロドロしたところさえも神様に打ち明けることで、神様の光が照らされ、神様からの癒しや平安に変えられます。神様は、私たちを救い、癒し、清め、祝福を与えてくださいます。私たちが正直に全てを明け渡すとき、素晴らしいとこしえの道に導かれます。

さいごに

【ポイント1】

「あなたは神様の最高傑作である」
あなたは神の最高傑作であることを受け入れましょう。あなたは自分のことをどう思っていますか。人と比べて自分はダメだと思うときがあります。比べるということは、周りの人のいいところを見抜く目をもっていると言い換えることができるのではないのでしょうか。自分が欠点だと思っていることは悪いことではないかもしれません。自分自身を大切に思ってみませんか。自分を客観的に見て、自分を受け入れていきましょう。それができると、自分の欠点を受け入れることができ、自分のことを良い悪いと判断することなく、その欠点をフォローできるようにやり方や考え方、環境等を変えていく工夫をすることができます。これは自分を愛することに繋がります。これができること、人に対しても同じような目線で見ることができると、聖書の黄金律は、あなたの神を力を尽くし心を尽くし愛しなさい、あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさいと言っています。この2つが強調されているように感じますが、実は3つです。あなた自身のようにと書いてあるように、自分を愛することが一番です。私たちは、人のためにかんばらなければいけないことがたくさんあります。そうではなく、神様を愛している自分を愛したら、自然と隣人を愛することができると。

【ポイント2】

「あなたを全て知っておられる神様に自分を明け渡そう」
神様は全てを知って愛して下さっています。私たちの葛藤や辛さ等を全部知っておられます。あなたが心を開いて、素直に全部明け渡すことを待っておられます。子どもは高いところからでも、お父さんの胸の中に飛び込みます。それは、お父さんが絶対を受け止めてくれると信じているからです。私たちも、絶対を受け止めてくれる神様の胸に飛び込み、全てを明け渡しましょう。そうすれば、本当の自分が見えてくるはずですよ。詩篇139：23-24を自分のものとし、「神様私の心を知ってください。」と祈っていきましょう。

(要約者:山本 洋子)

(2024年4月14日)